

桐原学区協働まちづくり協議会

「省エネ・脱 CO₂まちづくり」宣言

近江八幡市は、琵琶湖の豊かな水と土壌の恵みを受け、古くから農業を中心に栄え、ヨシの群生地である水郷地帯などの自然環境は素晴らしいものがあります。歴史的には織田信長の改革精神により開かれた楽市楽座の精神を、豊臣秀次の自由商業都市の思想に引き継がれ、近江商人の基礎が築かれました。

わが市はこのように恵まれた歴史・自然・文化に囲まれたまちであり、活力に満ちた人々が暮らすまちです。その中でも近江八幡市の西部に位置する桐原学区は、市内で最大規模の 18,000 人余りが暮らし、田園風景の中に旧村と新興住宅が混在しながらも調和のとれた素晴らしいまちです。学区内には歴史的遺産も多く存在し、自然が豊かで子どもたちの体験学習環境にも恵まれています。

また、学区民運動会や文化祭をはじめ、各種団体が主体的に活動する多くの行事には学区民が多数参加し、あたかも江戸時代の楽市楽座が現代に蘇ったような様相を醸し出しています。

このような環境の中で、私たちは何不自由なく暮していますが、いざ環境問題に目を向けたとき、世界各地で発生している異常気象を深刻に受け止める必要があります。近年の夏の猛暑や局地的豪雨などは予測のつかない形で私たちの日常生活に影響を及ぼすようになり、多くの人々が地球温暖化を実感するようになりました。

世界では 2015 年 12 月に 21 世紀後半に二酸化炭素を実質的に出さない社会をめざす「パリ協定」が批准されました。しかし、目標達成には程遠い状況です。

私たちは桐原学区の目標である「しあわせ・豊かさ・活力」のある地域づくり、「安全・安心」の地域づくりを目指していますが、かけがえのない環境を後世の子どもたちに引き継ぎ残せるようにしなければなりません。地球温暖化問題を自分自身の問題としてとらえ、省エネ・脱 CO₂の行動を暮らしの中に定着させることにより、50 年先 100 年先もすばらしい夕日を見ることが出来るまちづくりをめざし「省エネ・脱 CO₂のまちづくり」を宣言します。

令和元年 7 月 25 日

桐原学区協働まちづくり協議会